

# モモの新品種 ‘岡山PEH8号’

日原 誠介・田村 隆行

A New Peach Cultivar ‘Okayama PEH8 go’

Seisuke Hihara and Takayuki Tamura

## 緒言

岡山県のモモは、古くから果皮が着色しにくい白桃系の品種が栽培されており、現在、‘岡山白桃’の名でブランド化を図っている。岡山県は、白いモモを連続出荷する‘岡山白桃’のシリーズ化を計る目的で、早生から極晩生まで、果皮着色が少なく、生産が安定し、品質良好なモモ新品種の育成に取り組んでいる。その結果、早生については‘さきがけはくとう’（日原ら，2012）、中晩生では‘おかやま夢白桃’（笹邊ら，2005）晩生では‘白麗’などの新品種をそれぞれ育成してきた（笹邊ら，2001）。

しかし、極晩生品種のうち、岡山県で9月上旬に収穫できる‘ゴールデンピーチ’は黄肉種で、出荷量が少ない。また、この時期に成熟する白肉種として‘初秋白桃’が導入されているが、果実が硬く食味も不十分なため、あまり普及していない。そして、8月下旬に成熟する‘新白麗’は果実に渋味が発生しやすく、果実品質がやや劣る欠点を持っている（笹邊ら，2008）。

そこで、当研究所では、果皮着色が少なく、品質の優れた極晩生品種を育成するため選抜を行ってきたが、このたび、岡山県南部で9月上旬に収穫可能な極晩生のモモ新品種‘岡山PEH8号’を育成したので、その育成経過と特性の概要を報告する。

なお、本品種の育成にあたっては、（独）農研機構果樹研究所等関係機関の各位から多大のご助言とご協力をいただいた。ここに深甚なる感謝の意を表す。

## 育成経過

‘岡山PEH8号’は、岡山県農林水産総合センター農

業研究所（旧 岡山県農業総合センター農業試験場）で、‘清水白桃’を自然交配して育成した交雑実生から選抜された。

種子親の‘清水白桃’は、岡山県岡山市の農家が、‘白桃’と‘岡山3号’の混植園において発見し命名した中生品種で、果皮着色しにくく、果実品質が優れているが、生理的落果や核割れが多く、収量が不安定になる欠点を持っている（岡山県，2011）。

そこで、果皮着色が少なく、果実品質の優れ、しかも生産が安定する極晩生品種を育成する目的で、2005年夏に‘清水白桃’の自然交配で得られた種子から成熟期に胚を取り出し、種皮を取り除いて3℃で低温保存した。これを同年秋に播種し、交雑実生22個体を得て、春まで温室内で養成した。

2006年から育成22個体を育種圃場に定植し、2009年に初結実した。その後、1次選抜試験を継続した結果、個体番号‘5-101-1’が有望と判定されたため、2011年から‘岡山モモ14号’の系統名を付して、複製個体を作成し、2次選抜試験を実施した。その結果、他の極晩生品種に比べて果実が軟らかく、食味が優れ、果皮着色しにくい有望な系統と認められたことから、2014年2月に種苗法にも基づく品種登録を出願申請し、2014年7月に‘岡山PEH8号’の品種名で出願公表された（第28904号）。

## 品種特性

### 1. 試験方法

‘岡山PEH8号’の品種特性については昭和52年度種苗特性分類調査報告書〔モモ（毛桃）〕（岡山農試，1978）並びに育成系統適応性検定試験・特性検定試験

調査方法（果樹研究所，2007）の調査基準にしたがって行った。育成地において，筑波5号台木に接木した‘岡山PEH8号’の複製樹を2010年に2本，2011年に‘初秋白桃’，‘新白麗’と共に各品種5本ずつ圃場に植栽し，2012～2013年の2年間無底オレンジ袋を掛けて有袋栽培を行い，樹性，開花時期，果実特性，果実品質，結実特性，食味官能評価について比較調査を行った。しかし，年によって調査個体数が異なるため，統計解析は行わなかった。

2. 結果及び考察

(1)樹性

樹姿は‘初秋白桃’より立性のやや直立で，樹勢は強く，樹の大きさは‘初秋白桃’と同じ大である（写真1）。枝の太さは中程度で，着果枝の着色は中で，‘初秋白桃’と同程度に着色する。葉身の長さ，葉身の幅は‘初秋白桃’とほぼ同じで，葉身の先端の反りは無く，蜜腺は腎臓形をしている（表1）。

(2)開花特性

花の咲き型は普通咲で，‘初秋白桃’より花弁は大きく，広楕円形をしており，花色は‘新白麗’と同じ

桃色である。開花期は‘初秋白桃’とほぼ同じで，育成地（赤磐市）においては4月上旬に開花し，‘初秋白桃’と同様に花粉を持っている（表2，写真2）。

(3)果実特性

果実の形は‘新白麗’と同じ円形で，果頂部の形は広浅凹，梗あへの深さは深い。有袋栽培における果皮着色は無く，‘初秋白桃’や‘新白麗’より着色しにくく，果肉の色は乳白で，果肉着色は無い。核周囲の着色は‘初秋白桃’より弱く，果皮の付着性は‘初秋白桃’より弱い。（表3，写真3）。

果実の大きさは330g程度で，‘初秋白桃’や‘新白麗’より大きい。糖度は‘新白麗’と同程度に高く甘い。果汁の酸度は‘初秋白桃’より低く，渋味は無い。肉質は‘初秋白桃’より軟らかく，ち密さはやや密で，果汁が多い。そのため，食味官能評価は‘初秋白桃’より優れる（表4，6，写真4）。

(4)結実特性

収穫期は，‘初秋白桃’より7日程度早く，‘新白麗’より9日程度遅いため，育成地（赤磐市）においては，9月上旬に収穫できる。日持ち性は中で，裂果は見ら



写真1 ‘岡山PEH8号’の樹姿(複製樹)



左：新白麗 中：岡山PEH8号 右：初秋白桃

写真2 花の比較

表1 ‘岡山PEH8号’の樹性

| 品種名     | 樹姿   | 樹勢 | 樹の大きさ | 枝の太さ | 着果枝の着色 | 葉身の長さ | 葉身の幅 | 蜜腺の形 |
|---------|------|----|-------|------|--------|-------|------|------|
| 岡山PEH8号 | やや直立 | 強  | 大     | 中    | 中      | 長     | 中    | 腎臓形  |
| 初秋白桃    | 開帳   | 強  | 大     | 中    | 中      | 長     | 中    | 腎臓形  |
| 新白麗     | 斜上   | 強  | 大     | 中    | 中      | 長     | 中    | 円形   |

表2 ‘岡山PEH8号’の開花特性

| 品種名     | 花芽  |     | 開花盛期 <sup>2</sup><br>(月.日) | 花の咲き型 | 花弁の大きさ | 花弁の形 | 花色 | 花粉有無 |
|---------|-----|-----|----------------------------|-------|--------|------|----|------|
|         | 粗密  | 着き方 |                            |       |        |      |    |      |
| 岡山PEH8号 | やや密 | 複   | 4.10                       | 普通咲   | 大      | 広楕円形 | 桃  | 有    |
| 初秋白桃    | 中   | 複   | 4.11                       | 普通咲   | 中      | 広楕円形 | 淡桃 | 有    |
| 新白麗     | 密   | 複   | 4.9                        | 普通咲   | 中      | 広楕円形 | 桃  | 有    |

<sup>2</sup>2012～2013年の平均値

れない。核の粘離は粘核で、核割れはなく、生理的落果も‘初秋白桃’より少ない（表5、写真5）。

**栽培上の留意点**

本品種は、‘初秋白桃’や‘新白麗’に比べて果皮着色が少なく、果実品質も優れることから、岡山県特産の白桃系極晩生品種として普及が期待されるが、栽培に当たっては以下の点に留意する。

1. 岡山県内のモモ栽培地域で栽培可能である。
2. 果皮の着色は‘初秋白桃’や‘新白麗’より少ないが、収穫期の果実に青みが残りやすいので、遮光率の高い果実袋をかける。
3. 成熟期が遅く、台風や夜蛾の被害を受けやすいので、防風対策を十分行い、防蛾灯などを設置して被害を回避する。



左：新白麗 中：岡山 PEH8 号 右：初秋白桃

写真4 果実の比較



写真3 ‘岡山 PEH8 号’の果実断面



写真5 ‘岡山 PEH8 号’の樹上における成熟果

表3 ‘岡山PEH8号’の果実特性

| 品種名     | 果形  | 果頂部の形 | 梗あいの深さ | 果肉 |    | 核周囲の着色 | 果皮着色 | 果皮の付着性 |
|---------|-----|-------|--------|----|----|--------|------|--------|
|         |     |       |        | 色  | 着色 |        |      |        |
| 岡山PEH8号 | 円形  | 広浅凹   | 深      | 乳白 | 無  | 弱      | 無    | 弱      |
| 初秋白桃    | 扁円形 | 狭浅凹   | 深      | 乳白 | 無  | 強      | 微    | 強      |
| 新白麗     | 円形  | 狭浅凹   | 深      | 乳白 | 微  | 強      | 少    | 弱      |

表4 ‘岡山PEH8号’の果実品質

| 品種名     | 果実重 <sup>z</sup><br>(g) | 糖度 <sup>z</sup><br>(Brix) | 酸度 <sup>z</sup><br>(pH) | 肉質 |     | 渋味<br>多少 | 食味 <sup>y</sup><br>評価 | 果汁<br>多少 |
|---------|-------------------------|---------------------------|-------------------------|----|-----|----------|-----------------------|----------|
|         |                         |                           |                         | 硬軟 | 粗密  |          |                       |          |
| 岡山PEH8号 | 326                     | 15.2                      | 4.4                     | 軟  | やや密 | 無        | 中中                    | 多        |
| 初秋白桃    | 285                     | 15.6                      | 3.7                     | 硬  | 中   | 微        | 中下                    | 少        |
| 新白麗     | 263                     | 15.2                      | 4.6                     | 中  | 中   | 少        | 下上                    | 中        |

<sup>z</sup> 2012～2013年の平均値

<sup>y</sup> 食味評価は下下～上上の9段階評価

表5 ‘岡山PEH8号’の結実特性

| 品種名     | 収穫期(月.日) <sup>z</sup> |      |      | 日持ち性 | 裂果<br>多少 | 核の粘離 | 核割れ<br>多少 | 生理的<br>落果 |
|---------|-----------------------|------|------|------|----------|------|-----------|-----------|
|         | 始                     | 盛    | 終    |      |          |      |           |           |
| 岡山PEH8号 | 8.28                  | 9.3  | 9.9  | 中    | 無        | 粘    | 無         | 微         |
| 初秋白桃    | 9.5                   | 9.10 | 9.19 | 良    | 微        | 粘    | 少         | 少         |
| 新白麗     | 8.19                  | 8.25 | 9.2  | 中    | 無        | 粘    | 微         | 微         |

<sup>z</sup> 2012～2013年の平均値

表6 ‘岡山PEH8号’ と基準品種との食味官能評価の比較

| 調査<br>品種 | 食味評価 <sup>z</sup> |      |      |      |      |      |      | 評価 <sup>y</sup><br>人数 |
|----------|-------------------|------|------|------|------|------|------|-----------------------|
|          | 外観                | 香り   | 甘味   | 酸味   | 渋味   | 硬さ   | 総合   |                       |
| 岡山PEH8号  | 0.35              | 0.80 | 1.40 | 0.66 | 0.70 | 1.74 | 1.01 | 71                    |

<sup>z</sup> 基準品種(初秋白桃)を0とした-5(極不良)~5(極良)の11段階での相対評価  
農林水産総合センター職員による評価の2012~2013年の平均値

<sup>y</sup> 2012~2013年の合計

### 命名の由来

本品種の名称は、岡山県が戦後育成したモモ品種の中で、8番目に当ることから、‘岡山PEH8号’と命名した。ローマ字表記は‘Okayama PEH8 go’である。

### 摘要

‘岡山PEH8号’は、岡山県農林水産総合センター農業研究所において育成された極晩生のモモ新品種で、その来歴及び特徴は次のとおりである。

1. ‘岡山PEH8号’は‘清水白桃’を自然交雑して育成したモモ新品種で、2005年に採種した種子を同年秋に播種して育苗し、2006年に育種圃場へ定植した。その後、1次選抜試験で有望と判定されたため、2011年から‘岡山モモ14号’の系統名で2次選抜試験を実施した。その結果、他の晩生品種に比べて果実品質が優れ、果皮着色しにくく、栽培しやすいことから、2014年2月に種苗法に基づく品種登録を出願申請し、2014年7月に‘岡山PEH8号’の品種名で出願公表された。
2. 樹の大きさは‘初秋白桃’と同じ大で、樹勢は強く、開花期は‘初秋白桃’とほぼ同じで、花粉を持っている。
3. 果実の大きさは、‘初秋白桃’や‘新白麗’より大きく、有袋栽培では果皮着色しない。果肉は乳白色

で、果肉着色は無い。糖度は‘新白麗’とほぼ同じで高く、肉質は軟らかくて、ややち密で、果汁が多いため、食味官能評価は‘初秋白桃’より優れる。

4. 収穫期は‘初秋白桃’より7日程度早く、‘新白麗’より9日程度遅く、育成地においては9月上旬となり、核の粘離は粘核で、核割れは無く、生理的落果も‘初秋白桃’より少ない。

### 引用文献

- 日原誠介・藤井雄一郎・笹邊幸男(2012)モモの新品種‘さきがけはくとう’。岡山県農業研報, 3:11-15
- 果樹研究所(2007)育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法。pp73-96
- 岡山県(2011)岡山県果樹農業振興計画, 5p
- 岡山県立農業試験場(1978)昭和52年度種苗特性分類調査報告書〔モモ(毛桃)〕。267p.
- 笹邊幸男・藤井雄一郎・各務裕史・片岡正治・木村剛・紅谷文夫・平松竜一・依田征四(2001)モモの新品種‘白麗’の育成。岡山農試研報, 19:25-27
- 笹邊幸男・藤井雄一郎・各務裕史・片岡正治・木村剛・紅谷文夫・平松竜一(2005)モモの新品種‘おかやま夢白桃’の育成。岡山農試研報, 23:13-15
- 笹邊幸男・藤井雄一郎(2008)モモの新品種‘新白麗’の育成。岡山農試報, 26:11-13

### Summary

‘Okayama PEH8 go’ is a new peach cultivar released by Research Institute for Agriculture Okayama Prefectural Technology Center for Agriculture, Forestry and Fisheries. It resulted from the open pollination of ‘Simizu hakuto’ in 2005.

This variety can be harvested at early in September in Okayama. The size and vigorousness of the tree is large. The blooming time is relatively late and pollen fertile. The fruit is large size with high sugar content. It has a good taste for dessert. The skin color is milky green and the flesh is milky white in color with pink pigment around the pit. The physiological fruit drop and split pit is little. But paper bagging of fruit is necessary to obtain the white skin fruit.

It is highly recommended to grow this cultivar in areas like Okayama where the ‘white peach’ production is widely known in Japan.